



バッハの森通信

第126号
2015年
1月20日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森



バッハの森の不思議

命の不思議に感動する人々の集い

新年、おめでとうございます。2015年に、バッハの森は創立30周年を迎え、私事の報告で失礼しますが、私は7回目の年男になります。今、先ず思うことは、バッハの森が30年も続いたこと不思議と、この不思議が、多くの方々の様々なご尽力の賜物だということです。同様なことが自分の人生についても言えます。命がある、生きている、ということがつくづく不思議だと思われてきました。

* * *

バッハの森の不思議は、その存立基盤が、各自の自由意志で参加する会員だけ、ということです。数年前に、新しい法律に従って、財団法人から一般財団法人に移行するため、その手続きをしてくれる会計事務所を探しましたが、次々と断られました。彼らの判断によると、財務状況からみて、バッハの森が存続する可能性は少ないということでした。最後に引き受けてくれた事務所の方は、要するに学生の同好会のようなものですね、と言っていました。

確かに、バッハの森は同好会のような組織です。学校ではありませんから、入試もなければ、資格授与もありません。宗教団体ではありませんから、信仰や信条は問いませんし、入退会自由です。バッハを代表とする、バロック時代の教会音楽に興味があれば、誰でも参加できます。しかも、興味の追求の仕方も各自の自由です。合唱、オルガン、クラヴィコード、チェンバロ、ハンドベルなどの音楽活動のどれに参加するかも自由なら、バッハの音楽を理解するために学ぶコーラルやカンタータの研究会、聖書の読書会も決して「必修科目」ではありません。

しかし、バッハの森が学生の同好会と違うところは、楽器や建物を所有しており、そのランニングコストを自力でまかなわなくてはならないことです。バッハの森の活動に必要なオルガンなどの楽器、楽譜その他の書籍、これらを収納する建物などは、30年前に故・石田一子の寄付と募金によって取得したのですが、これらの所有物と地上権による土地を維持し、かつ光熱費、その他の費用を含めると、毎年、約700万円かかります。

それにもかかわらず、バッハの森には基金500万円の他、財産はありません。(その利子は年間数千円にもなりません)。しかも、宗教団体は勿論、どのような団体や企業とも無関係ですから、毎年700万円を、出入り自由な会員の会費と自由な寄付だけでまかなうという“非常識”な財務状況なのです。これでは、すべての会計事務所が存続不可能と判断したのは無理ありません。

そのバッハの森が30年も存続し、活発に活動を続けています。不思議ではありませんか。

* * *

6年と1ヶ月前に、バッハの森を、私と共同して創設し、運営してきた妻・一子が亡くなりました。2007年秋にガンの告知を受け、その後1年治療を受けながら短期の入退院を繰り返しましたが、結局、12月初めに、痛みを緩和するだけでもう治療はしません、と念を押されて、緩和ケア病棟に入院しました。そのとき医者から余命1週間と告げられましたが、彼女は4週間、頑張りました。

この間、彼女は生きようとする意欲を決して失いませんでした。抗ガン剤投与がなくなり、かえって元気になった彼女は、5種類の漢方薬を持ち込み、朝昼晩と記録をつけながら服用していました。治る可能性を全く放棄するわけにはいかなかったのです。自力では立つこともできなくなっていました。ベッドの中で足の指を動かすリハビリに励んでいました。来年のオルガン教室の学習計画を作成中だとも言っていました。このように、彼女が余りにも前向きに明るく生きているので、医者や看護師、ついには私まで、死期が近いことが分かっているのか、と疑ったほどでしたが、勿論、状況を理解していたことは、後で分かりました。死期が近いと言われても、生きている間は生き続けるという生き方を、彼女は最後まで貫いたのです。

「死者があなたを讃美することはない。生きている者のみがあなたに感謝できる」とヘブライの詩人は神に祈りました。「讃美」と「感謝」を「感動」と置き換えれば分かり易いでしょう。命がある不思議に覚える感動、それがバッハの教会音楽を創り出しているのです。この感動に惹かれて集まった人々によって、バッハの森は30年も活動を続けてきました。命の不思議に感動を覚える方たちが、さらに参加してくださることをお待ちしております。(石田友雄)

《バツハの森のクリスマス・2014》

平和の鍵はどこに？ 「天」に隠されているのか？

*以下は、クリスマス・コンサートで朗読されたメディタツィオの要約です。

ルカによる福音書が伝える、イエス・キリストの降誕物語は、2章にわたる長い物語ですが、そのクライマックスは、天使の大軍の讃美です。すなわち、ベツレヘム郊外の野原で、徹夜して羊の番をしていた羊飼いたちに天使が現われ、今日、ダビデの町でお前たちのために救い主がお生まれになった、と知らせたところ、突然、出現した天使の大軍が歌いだしました。

いと高きところにいます神に栄光があるように。
地には平和がみこころに適う人々にあるように。

「いと高きところ」とは、何層にも重なっている天の一番上、という意味です。そこに玉座があって、天の王国の王様が座っていらっしゃる、という光景をイメージしてください。そして「栄光があるように」とは、その天の王様の支配を受け入れ、讃美しますという意味です。

「主の祈り」が教える天の王の支配

この讃美の言葉が何を意味するか、イエスが教えた「主の祈り」によって考えてみましょう。「主の祈り」は、「天にいます私たちの父よ」と神に呼びかけてから6つの祈願をします。先ず「あなたの御名が聖なるものとされますように」と祈ります。神の御名はもともと「天」に属す「聖なるもの」ですが、これは、祈るとき、改めて神は「地」に属さない方であることを確認せよ、という教えです。

次に「あなたの王国が来ますように」と祈り、天、すなわち、神の王国が地上に到来することを願います。「王国」を王の支配権とするのが第3の祈りです。「あなたの意志することが実現しますように、天におけるように、地上でも」と、神、独りの支配権が天の王国と同じように、地上でも行なわれるようにという祈りです。

ここまで「主の祈り」前半の3つの祈りは、すべて天の王である神の支配を承認し、その支配権が地上に及ぶことを祈願しています。ですから、これら3つの祈りを煎じ詰めると、「天にいます神に栄光があるように」という、天使の大軍の讃美の言葉になります。

「主の祈り」後半の3つの祈りは、先ず、毎日の食物が与えられること、次に互いに許し合うこと、最後に災害に遭遇しないよう祈願します。これら3つの祈りが実現していれば、当然、地には平和があります。

では、「主の祈り」の前半と後半は、どのような関係があるのでしょうか。「主の祈り」が、「天にいます私たちの父よ」と呼びかけて祈り始めることから、天の王の支配が地上に及ぶことを祈願する前半が、地上の平和を祈願する後半の前提であることが分かります。天使の大軍の讃美では、「みこころに適う人々」という言葉により、地上で平和が与えられる者は、天の王である神の支配に栄光を帰す人々であることが示されます。要するに、天の王の栄光を讃美することが、地上で平和が与えられる大前提だ、とイエスは教えたのです。

人類の滅亡を回避する道

イエスが、天の王国は近づいた、と述べ伝え、天の王国を地上に実現することを目指して活動を始めてから2000年たちました。この間、人々が平和を願い求めてきたことは間違いありません。それにもかかわらず、地上に平和が来る日は、いよいよ遠のいているように見えます。拡大する貧富の格差、激化する地域間の紛争、抗議の怒りを爆発させるテロ、自然環境の汚染と破壊、急速に進行する温暖化等々、人類が滅亡に向かっていると感じる人が増えてきました。どうしたら、この危機的状況を解決して平和を樹立することができるのでしょうか。

イエスの教えに従えば、天にいます神の支配を承認して、神にのみ栄光あれ、と唱えることが、地上に平和を確立する条件です。どうしても危機解決の道が見つからない、と多くの人が思い始めた今、「地」とは異次元の「天」に、人類の滅亡を回避する鍵が隠されているかもしれない、と考えざるをえないのではないのでしょうか。「天」に「地」の平和の鍵があると教えたイエスの誕生を記念して、クリスマスを祝う全世界の人たちと声を合わせ、「いと高きところにいます神に栄光があるように」と歌ってみませんか。平和への道が見えてくるかもしれません。(石田友雄)

《バッハの森のクリスマス・2014》

豊富なプログラムと 一貫した学び

昨年11月30日から12月20日まで、5週連続5回のコンサートが、「バッハの森のクリスマス」として開かれました。このような連続コンサートを、バッハの森で開くのは初めての試みとのこと、それにそのチラシとポスターが大変ダイナミックなデザインの美しい印刷だったので、始まる前から期待が高まり、心が弾みました。

1回目の「オルガン・コンサート」は、アドヴェントとクリスマスのコラールに基づくバッハのオルガン編曲を、バッハの森のクラヴィコード・オルガン教室の講師、宮本とも子さんの演奏で聴きました。素晴らしい演奏でしたが、曲の合間に友雄先生の歌詞朗読と参加者全員のコラール斉唱が入ったので、オルガン曲の元になったコラールの意味を理解し、深く感じながら味わうことができました。

2回目の「バロック・アンサンブル」は、比留間恵さんのソプラノ、辺保陽一さんのリコーダー、鴨川華子さんのチェンバロにより、様々な組み合わせの音楽が演奏され、それぞれの魅力を十分に味わうことができました。バッハの森では演奏されることの少ないテレマンの楽曲では、バッハとは趣の異なる美しさを堪能しました。バッハの森でそれぞれ合唱指揮とチェンバロ教室の講師をなさっている比留間恵さんと鴨川華子さん、それに新たに辺保陽一さんが参加してくださり、一緒に学ぶ仲間の演奏を聴くことができたのも嬉しいことでした。

3回目は、「CDで楽しむメサイア」で、友雄先生の解説と共に第I部を鑑賞しました。広く親しまれている音楽ですが、そのためにかえって音楽の美しさだけに耳を傾けてしまいがちです。それが、解説によって、聖書のあちこちから集められたメシア預言を絵画的に描く見事な音楽がつけられていることを理解して鑑賞すると、約270年前の初演を聴いた人たちの思いを追体験しているようで、改めて胸に迫るものがありました。最後に「ハレルヤ・コーラス」を参加者全員で、アーレント・オルガンの伴奏で合唱すると、共に学んだ皆さんとの一体感を感じることができました。後で「面白かった。続けてほしい」、「今度は第II部、第III部も」という声があちこちから聞こえてきました。私は「ハレルヤ・コーラス」をもっと歌えることを期待しています。

4回目の「クリスマス・コンサート」は、バッハの森のいつものコンサートのスタイルで進められました。合唱のメンバーとして参加している私は、この流れや音楽との向き合い方にすっかりなじみ、安心

感があります。それに、クリスマスは、バッハの森の活動の中でも特別な季節だという思い入れがあります。今回は前半が「マリアのエリザベート訪問」、後半が「降誕」という二つのテーマがあるコンサートでしたが、友雄先生の聖書とメディタツィオの朗読を通して、それぞれのテーマをしっかりと受け止めて演奏することができました。また、やむを得ない事情があって、短期間で準備をしなければならなかった若いオルガニスト、鈴木由帆さんが、コンサート全体の音楽的流れを造る役目を見事に果たされたことには心から感心し、彼女の奮闘と活躍に大いに刺激を受けました。

最終日の「家族で楽しむクリスマスの音楽会」では、降誕物語をテーマにする名画のスライドを写しながら、物語を朗読し、場面に沿って音楽をみんなで歌ったり、演奏して、クリスマスの喜びを伝える歌と踊りの楽しい集いになりました。小さなお子さん連れでバッハの森を初めて訪れてくださった方々も大勢いて、とても嬉しく感じました。私は司会を務めさせていただきましたが、プログラムを始める前に、プログラムの中で歌うクリスマス・キャロルを数曲、参加者の皆さんに練習していただきました。そのためでしょうか、音楽会の中で、参加者の皆さんも大きな声と一緒にキャロルを歌ってくださいました。皆さん、ただ音楽を「聴いた」のではなく、「参加して共に造った」ことを実感してくださったのではないのでしょうか。今後も「家族で楽しむ音楽会」シリーズを企画するにあたり、このような試みが特に大切だと再確認しました。

この音楽会で歌うために、みんなが一番よく知っているクリスマス・キャロル「きよし、この夜」の新しい訳詩を、特にお願いして友雄先生に作っていただきました。この聞き慣れた歌を、ドイツ語の原詩に沿った新しい歌詞で歌うと、より一層しみじみと心静かになるようで、素朴な美しい旋律も際立ち、今までより好きになりました。

5回のコンサートを通して心に残ったことは、まずそれぞれが多様で豊富なプログラムで構成され、どのコンサートも興味深く楽しかったことです。毎回、次週はどんな音楽を聴き、新しく何を学べるかなという期待で胸が膨らみました。この5週間、クリスマスの喜びを存分に味わい、実感しながら過ごせたのは素晴らしいことでした。

同時に、どのコンサートもそれぞれ趣が異なり、それぞれの楽しみがありながら、全部に一貫したものがあって、5回のシリーズが終わった後には、学んだことが蓄積された充実感が残りました。これは、バッハの森の様々なプログラムに参加して学ぶときに、いつも感じることです。「バッハの森のクリスマス・2014」は、その凝縮版だったのだな、と振り返っています。(岩淵倫子)

クリスマス・コンサートを終えて

バッハの森をお訪ねするきっかけは、昨年9月、当時まだドイツに留学中だった私に宮本とも子先生が下さった、「12月までカンタータの伴奏のお手伝いをしませんか」というお誘いのメールでした。10月に日本に帰ると決めたものの、帰国後の予定がまだ明確でなかった私には渡りに船のお話で、迷わずお引き受けしました。その時には、12月14日のコンサート本番に出演させていただけるとは思っておりませんが、本番の5日前に宮本先生のご両親が倒れ入院されるという不慮の事態で（幸いにも、その後回復し退院なさったとうかがい、ほっとしております）、急遽、本番でのオルガン演奏をすべて担当させていただくことになりました。3日間、バッハの森に泊まり込みで準備をいたしました。その短い時間で当初のプログラムをそのまま用意することは不可能でしたので、間に合わせることでございそうな曲の中から、友雄先生に、クリスマスに相応しいものを選んでいただきました。短時間で、当初のものに負けないくらい、内容豊かで素敵なプログラムを練り上げてくださった先生に、たいへん感謝しております。

間に合わせられるかという不安は大きかったです。本番は無事、皆さまとともに音楽を楽しんで奏することができ、私にとってはたいへん勉強となる、良い経験となりました。練習以上に素晴らしい歌声を響かせてくださったクワイア、少人数とは思えない美しい音の重なりを聴かせてくださったハンドベル、厚みのある斉唱で伴奏を引っ張ってくださった会衆のみなさま・・・、ここでのコンサートが、その場に参加するすべての人の力によって良いものと造り上げられていることを、体感したひと時でした。

この3ヶ月間、クワイアの伴奏、聖書の読書会、コーラルとカンタータの研究会等に参加して強く感じたのは、バッハの森に参加している方々が、教会音楽を、いかに“豊かに”楽しみ、学び、理解に努め、聴き、演奏しているかということです。それは私にとって、大きな驚きであり感動でした。プロにとっても難しいバッハのカンタータを素敵に歌い上げてしまうのは、歌詞の理解に基づき巧みに音楽を造っていく指揮・指導者の比留間恵さんのお力と、メンバーの方々が心から楽しみながら学び続け、さまざまな角度から理解を深めてきた賜物だと感じました。キリスト教に根ざす音楽にどのようにアプローチしたらよいかということ、初めて正しく学ばせていただいた気がしています。

“キリスト教徒ではないオルガニスト”というマイノリティな存在である私は、ずっと「宗教音楽において、信仰を持たない者の演奏は良い演奏たりうる

のか？」という疑問を持ち続けてきました。「信仰せずとも正しく理解する」ことは可能なのか、キリスト教にどう関わればよいのか、わからずにいました。そんな中、ここを訪れて初めて、聖書に何が書いてあるか、そしてそれを知るために必要な、今の時代とは大きく違う聖書の世界の「常識」を、信仰の有無の差を感じることなく対等に、客観的に学ぶという経験をしたのです。

今回、礼拝ではなく「コンサート」が、ミサという伝統的な礼拝形式を枠として、その流れの中で教会音楽を演奏するという形をとっているというのは、私にとって新しい経験でした。こうすることにより、音楽をただ楽しむだけではなく、教会音楽の本来の意味を体験することができ、回を重ねるごとにいつの間にか、バッハの時代の常識が身についていくという効果があると感じ、バッハの森恐るべし・・・と感嘆しました。

しばらくドイツに暮らしてみても改めて思ったのは、日本という国には特に、キリスト教信仰を持たない教会音楽愛好家が多いということです。宗教という面からではなく、文化的な面からキリスト教音楽に魅せられている人々にとってもまた、ここでの学びや活動はたいへん意味のあるものです。

私はまだまだ、おそらくバッハ時代においてはかなり「常識のない」人間ですが、このような場所を与えていただけたことに感謝し、楽しみながら学びを続けていきたいと思えます。（鈴木由帆）

* * *

楽しかったクリスマス

「今年のクリスマスは野心的な計画を立てました。お楽しみに」というメールを友雄先生からいただいたのが8月末。その後、様々な種類のコンサートを5週連続するという全貌が判明し、大変興味深く思い、11月23日に始まるのを期待して待っていました。

「オルガン・コンサート」 ハンドベルの点鐘で始まり、「来たれ、異邦人の贖い主よ」の朗読、歌詞朗読、オルガン演奏、コーラル斉唱と続き、アドヴェントの静かで厳かな気持ちになりました。宮本とも子さんのオルガンに合わせてコーラルを歌うと気持ちが安らぎました。

「バロック・アンサンブル」演奏者の皆さんの希望があり、急遽、ハンドベルの点鐘で始めました。ハンドベル・クワイアのメンバーとして、いつもコンサートのとき点鐘に参加していますが、点鐘があるとコンサートの枠組みがくっきりします。私自身、点鐘が大好きで、ベルを振りながら、この音の重なりにもっと浸っていたいと思えます。比留間恵さんのソプラノと鴨川華子さんのチェンバロで「私は主

に歌おう」が演奏されました。鴨川さんの通奏低音研究会の課題曲なので譜面を知っていましたが、鴨川さんの通奏低音が何と複雑でエレガントな音になるものかと、とても不思議でした。久しぶりに歌う恵さんの声には、うっとりしてしまいました。

「メサイア」メサイア＝メシアということ、巷の合唱団の人たちは余り意識していないのではないのでしょうか。今、バッハの森では、土曜日午後の読書会：聖書で、詩篇を読んでいます。先日、詩篇2篇を読みました。そこで新しい王が即位の儀式で「油を注がれた者」、ヘブライ語で「メシア」になることを学びました。しかもメシアはギリシャ語でキリストになります。このメシア＝キリストの支配を讃美する歌が「ハレルヤ・コーラス」だということを“予習”してあったので、岩淵倫子さんの指揮、海東俊恵さんと金谷尚美さんのアーレント・オルガン伴奏で歌った「ハレルヤ・コーラス」は感動的でした。

「クリスマス・コンサート」私も属しているクワイアは、バッハのカンタータとクリスマス・オラトリオから抜粋した3曲も歌ったので大変でしたが、いつものように本番が一番いい出来でした。それにしても、直前にオルガンを全部委された鈴木由帆さんの素晴らしい演奏は特筆ものでした。大変な努力をなさったとうかがっています。感謝！

「家族で楽しむクリスマスの音楽会」岩淵さんのテキパキした司会で、名画のスライドを写しながら、朗読とクリスマス・キャロルで降誕物語を語り、そこに器楽アンサンブル、チェンバロ、オルガン、それにダンスまではいった盛りだくさんのプログラムでしたが、メリハリがあり、子どもたちにも楽しいひとときだったと思います。

この後、バッハの森の会員とその家族は、クリスマス祝会を楽しみました。(三縄啓子)

* * *

統計：バッハの森のクリスマス・2014

参加者数

オルガン・コンサート	43名
バロック・アンサンブル	35名
CDで楽しむメサイア	18名
クリスマス・コンサート	46名
家族で楽しむクリスマスの音楽会	41名
	<u>計 183名</u>

収支決算報告

収入 参加費

オルガン・コンサート	88,500円
バロック・アンサンブル	66,000円
CDで楽しむメサイア	14,000円

クリスマス・コンサート	67,000円
家族で楽しむクリスマスの音楽会	21,000円
5回通し券(1枚)	5,000円
	<u>計 261,500円</u>

収入総計

参加費合計：	261,500円
バッハの森より補填：	178,200円
	<u>計 439,700円</u>

支出

演奏者謝礼(5名)	150,000円
演奏者交通費(5名)	24,200円
オルガン調律費(2回)	64,200円
	<u>計 238,400円</u>

バッハの森記念奏楽堂(リハーサルを含む)

使用料 1,000円(1時間)	
「オルガン・コンサート」 5時間	5,000円
「バロック・アンサンブル」 5時間	5,000円
「クリスマス・コンサート」 5時間	5,000円
「CDで楽しむメサイア」 4時間	4,000円
「家族で楽しむ クリスマスの音楽会」 4時間	4,000円
	<u>計 23,000円</u>

楽器使用料

パイプオルガン：	
使用料 1,300円(1時間)×12時間	15,600円
チェンバロ：	
使用料 700円(1時間)×6時間	4,200円
ハンドベル：	
使用料 700円(1時間)×3時間	2,100円
	<u>計 21,900円</u>

印刷費

チラシ(1,000枚)	54,000円
プログラム(200部)	102,400円
	<u>計 156,400円</u>

支出総計：439,700円

寄付者芳名(敬称略日付順)(2014.10.21～12.31)

下記の方々から計256,000円のご寄付をいただきました。小関旦子、宮下ヘドウィック、比留間恵、野堀豊定、榊原隆、南佐久消費者の会。

建物維持積立寄付(2014.10.21～12.31)

下記の方々から計29,000円のご寄付をいただきました。石井和子、比留間伸行・恵、山田光子、坂口節子、長岡佐栄子、大和田みどり、岡本由紀子、岩淵倫子、是井信朗、水野賢司。

オルガン修復積立寄付(2014.10.21～12.31)

下記の方から計11,000円のご寄付をいただきました。手塚幸子、藤森いずみ。

日誌 (2014 .10. 13 ~ 12. 31)

10. 16, 23, 30 運営委員会 参加者各 4 名。
10. 18 リハーサル (バロック・アンサンブル: バッハの森のクリスマス・2014) 参加者 2 名。
11. 1, 15, 22 リハーサル (バロック・アンサンブル: バッハの森のクリスマス・2014) 参加者各 3 名。
11. 6, 13, 20, 27 運営委員会 参加者各 4 名。
11. 15, 22 リハーサル (メサイア: バッハの森のクリスマス・2014) 参加者各 2 名。
11. 20 クリスマス飾り付け 参加者 6 名。
11. 21 オルガン調律 参加者 2 名。
11. 23 オルガン・コンサート (バッハの森のクリスマス・2014) 参加者 43 名。
11. 25 見学 南佐久消費者の会 参加者 46 名。
11. 30 バロック・アンサンブル (バッハの森のクリスマス・2014) 参加者 35 名。
12. 4, 11, 18, 25 運営委員会 参加者 4, 4, 4, 3 名。
12. 7 CD で楽しむメサイア (バッハの森のクリスマス・2014) 参加者 18 名。
12. 14 クリスマス・コンサート (バッハの森のクリスマス・2014) 参加者 46 名。
12. 20 家族で楽しむクリスマスの音楽会 (バッハの森のクリスマス・2014) 参加者 41 名。
クリスマス祝会 (バッハの森の会員と家族のための) 参加者 21 名。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

- ### コラール・カンタータ研究
- ### コラールとカンタータ (JSB)
10. 18 三位一体後第 14 主日のカンタータ「私の身体には何一つ健全なところがありません」(BWV 25); コラール「誠なる神よ、われ主に嘆く」。オルガン: J. S. バッハ「私は私のすべての日々」(BWV 25/6)、當眞容子。参加者 12 名。
10. 25 第 377 回、オルガン: J. G. ヴァルター「誠なる神よ、私はあなたに嘆き訴えなければなりません」、當眞容子。参加者 10 名。
11. 1 三位一体後第 17 主日のカンタータ「お前たち、御名の栄光を主に帰せよ」(BWV 148); コラール「御神にわれ、頼りまつる」。オルガン: J. S. バッハ「アーメン、いつでも私は心の底から語ります」(BWV 148/6)、安西文子。参加者 13 名。
11. 8 第 378 回、オルガン: J. S. バッハ「どこに私は逃がれるべきか」或いは「私の愛する神に私は寄り頼む」(BWV 646)、安西文子。参加者 12 名。
11. 15 三位一体後第 23 主日のカンタータ「不誠実な世よ、私はお前を信頼しない」(BWV 52); コラール「主に望みかけぬ」。オルガン: J. S. バッハ「あなたに私は望みをかけました」(BWV 52/6)、笠間きよ子。参加者 10 名。

11. 22 第 379 回、オルガン: J. S. バッハ「主にわれ望みかけぬ」(BWV 640)、笠間きよ子。参加者 11 名。
11. 29 アドヴェント第 1 主日のカンタータ「さあ、来てください、異邦人の救い主よ」II (BWV 62); コラール「いざ、来たりませ」。オルガン: J. S. バッハ「父なる神に讃美が捧げられるように」(BWV 62/6)、當眞容子。参加者 11 名。
12. 6 第 380 回、オルガン: J. S. バッハ「さあ、来てください、異邦人の救い主よ」(BWV 599)、當眞容子。参加者 12 名。

学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱) 10.18 / 14 名、10.25 / 11 名、11.1 / 14 名、11.8 / 15 名、11.15 / 13 名、11.22 / 15 名、11.29 / 13 名、12.6 / 14 名、12.13 / 15 名 (ゲネプロ)。
バッハの森・バロック・アンサンブル 10.18 / 3 名、11.1 / 3 名、11.15 / 3 名、11.29 / 3 名。
バッハの森・ハンドベル・クワイア 10.25 / 3 名、11.8 / 3 名、11.22 / 3 名、11.29 / 3 名。
通奏低音研究会 10.18 / 6 名、11.15 / 7 名。
オルガン音楽研究会 10.17 / 8 名、10.31 / 6 名、11.14 / 11 名、11.28 / 10 名。
コラール研究会 10.17 / 7 名、10.31 / 5 名、11.14 / 10 名、11.28 / 9 名。
クラヴィコード・オルガン教室 10.17 / 3 名、10.31 / 4 名、11.14 / 4 名、11.28 / 2 名。
オルガン・クラブ 10.24 / 3 名、11.7 / 3 名。
チェンバロ教室 10.28 / 2 名。
読書会: 聖書 10.18 / 9 名、10.25 / 7 名、11.1 / 7 名、11.8 / 10 名、11.15 / 7 名、11.22 / 8 名、11.29 / 8 名、12.6 / 7 名。
オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習 10.14 / 1 名、10.15 / 2 名、10.16 / 2 名、10.17 / 1 名、10.18 / 2 名、10.21 / 2 名、10.22 / 2 名、10.23 / 2 名、10.24 / 2 名、10.25 / 1 名、10.28 / 4 名、10.29 / 1 名、10.30 / 2 名、11.1 / 1 名、11.4 / 3 名、11.5 / 1 名、11.6 / 3 名、11.7 / 3 名、11.8 / 4 名、11.11 / 1 名、11.12 / 1 名、11.13 / 2 名、11.14 / 1 名、11.18 / 3 名、11.19 / 2 名、11.20 / 3 名、11.21 / 3 名、11.22 / 3 名、11.25 / 1 名、11.26 / 1 名、11.27 / 2 名、11.28 / 1 名、11.29 / 2 名、12.2 / 2 名、12.3 / 1 名、12.4 / 2 名、12.5 / 3 名、12.6 / 3 名、12.9 / 1 名、12.10 / 2 名、12.11 / 2 名、12.12 / 1 名、12.13 / 1 名、12.16 / 2 名、12.17 / 2 名、12.18 / 2 名、12.19 / 1 名。